

事例1

< 事例概要 >

出血

- ① 70 歳代、感染性心内膜炎後の重症僧帽弁逆流に対する僧帽弁形成術後、急性呼吸促進症候群、急性腎不全で透析中。左内頸に挿入中の血液浄化用カテーテルが感染疑いで右内頸静脈に入れ替えを予定していた患者。
- ② 輸液投与の血管確保のため、PICC挿入を試みたが留置できず、中心静脈カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 41.4 kg/m²。深部静脈血栓症予防と不整脈のためヘパリン持続注入中。
- ④ 左大腿静脈より超音波を使用せず穿刺。2 回目以降はリアルタイム超音波ガイド下で 5 回穿刺、ガイドワイヤーが挿入できず中止。翌日左鼠径部の色調の変化を認めたが腫脹なし。4 日後、突然脈拍数が110 回/分へ上昇後、心肺停止となり、蘇生時に左鼠径部に小児頭大の腫瘤を確認。同日死亡。
- ⑤ 死因は、左大腿動脈損傷部の破綻（疑い）による出血。死亡時画像診断（Ai）有（血腫約800 ml）、解剖有。